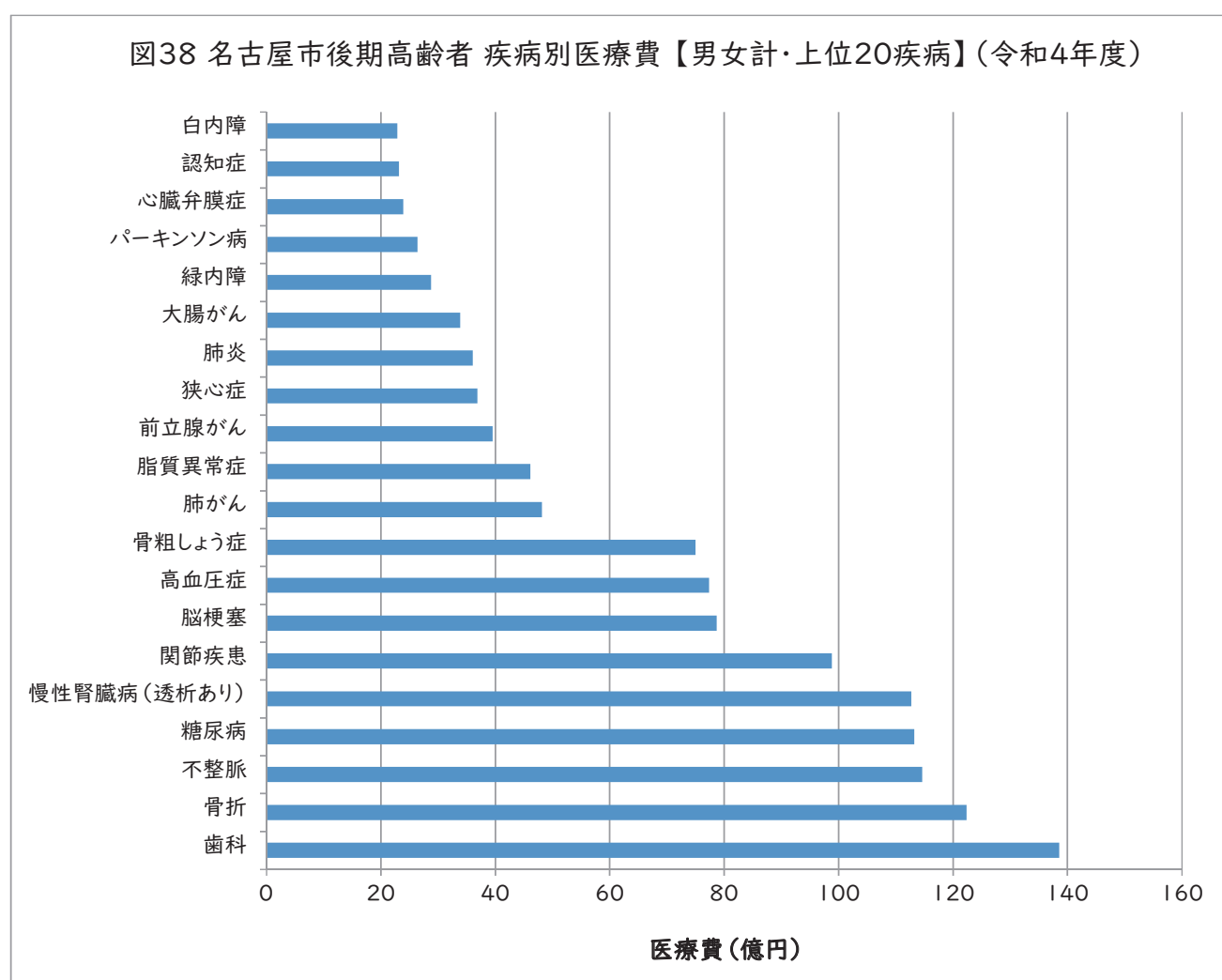


令和4(2022)年度の名古屋市後期高齢者医療費上位20疾病を示します(図38)。

1位が歯科(約138億円)、2位が骨折(約122億円)、3位が不整脈(約114億円)でした。

なお、疾病別医療費は入院・外来の総レセプト点数×10円で計算しました。レセプトには複数の傷病名が記載されていることがあります。KDBではレセプトデータを分析し、最も医療資源(医療行為、医薬品、特定機材等)を要した傷病名を最大医療資源傷病名と定義し、レセプトの合計点数をその最大医療資源傷病名に計上しています。歯科についてはレセプト病名による分類ができないため、歯科全体の医療費で表しています。



出典:国保データベース(KDB)システム

男女それぞれの疾病別医療費上位20疾病を選び、男女別の疾病別医療費の合計を散布図で示しました(図39)。グラフ中の点線の上方は、女性の医療費が男性より高額、点線の下方は男性の方が高額な疾病を表しています。なお、男女で被保険者数は異なるため、点線による区分は医療費の男女差を示すおおよその傾向となります。

歯科、骨折、関節疾患、骨粗しょう症は女性に多く、不整脈、糖尿病はほぼ男女に差はなく、慢性腎臓病(透析あり)は男性が多くなっています。

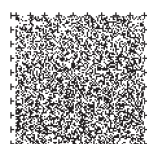
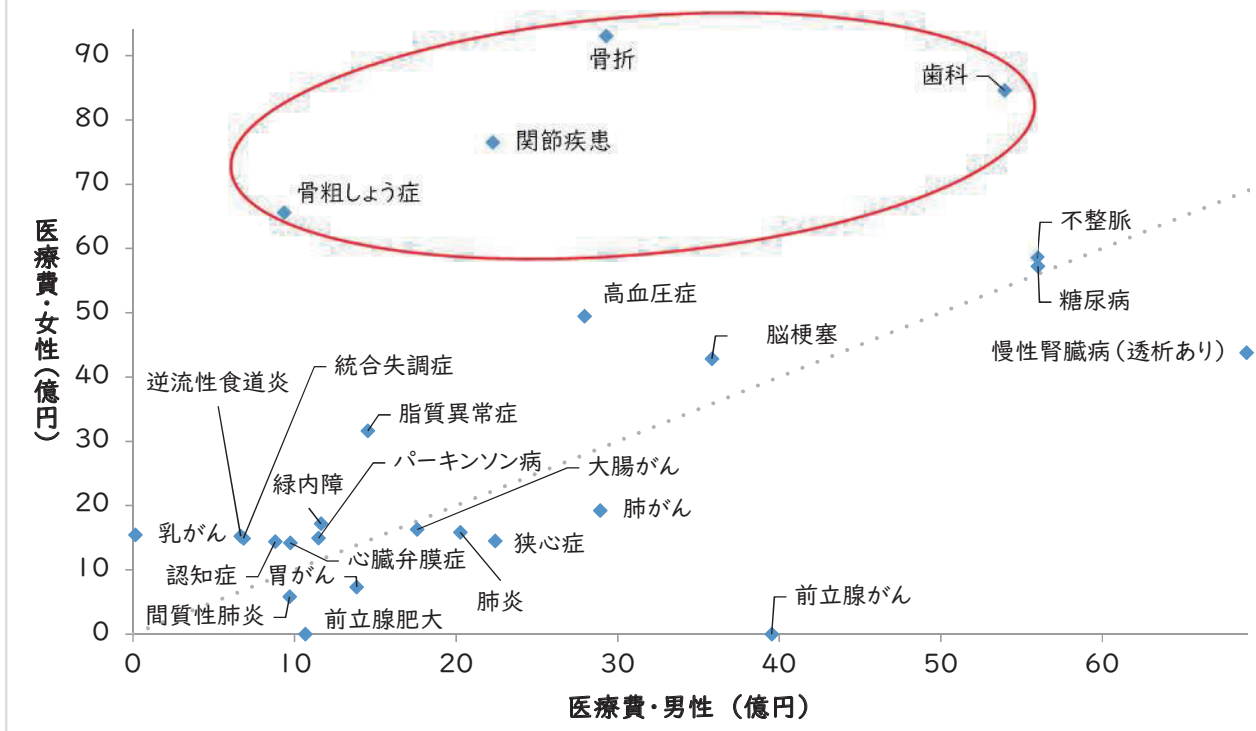


図39 名古屋市後期高齢者 疾病別医療費（令和4年度）



出典：国保データベース（KDB）システム

※標準化と性年齢調整について

人口が多ければ医療費の総計も高額になるため、地域間の比較には医療費を人口で割った一人あたり医療費を用います。ただし、高齢者の医療費は若年層に比べ高額で、高齢者が人口に占める割合が高い地域は、一人あたり医療費も高額となります。平均値であっても、人口の年齢構成や男性・女性の比率による影響を受けます。そこで、対象の地域と全国等の比較する地域の年齢構成や男女比を同一と仮定して平均値を算出する作業を性年齢調整といいます。その結果得られた平均値を全国等の対象となる地域の値で割った数値が標準化された値です。標準化医療費が100%であれば全国と同レベル、100%未満は医療費が低い、100%超は医療費が高いと判断されます。

図40、図41では、男女別の医療費上位20疾病について、医療費と標準化医療費の関係を示しています。グラフ中の点線は標準化医療費100%のラインで、左側は全国平均と比べて医療費が低い、右側は医療費が高い疾病です。男女ともに、歯科と脂質異常症の標準化医療費は120%を越えています。標準化医療費が110%以上でかつ医療費が高額（40億円以上）な疾病は、男女の糖尿病、慢性腎臓病（透析あり）、女性の骨粗しょう症です。糖尿病、慢性腎臓病（透析あり）の医療費もそれぞれ4、5位と注目すべき疾病です。骨折は女性で最も医療費が高く、標準化医療費が102%と全国平均に近い値となっています。

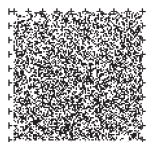


図40 名古屋市後期高齢者 疾病別医療費（1～20位）【男性】（令和4年度）

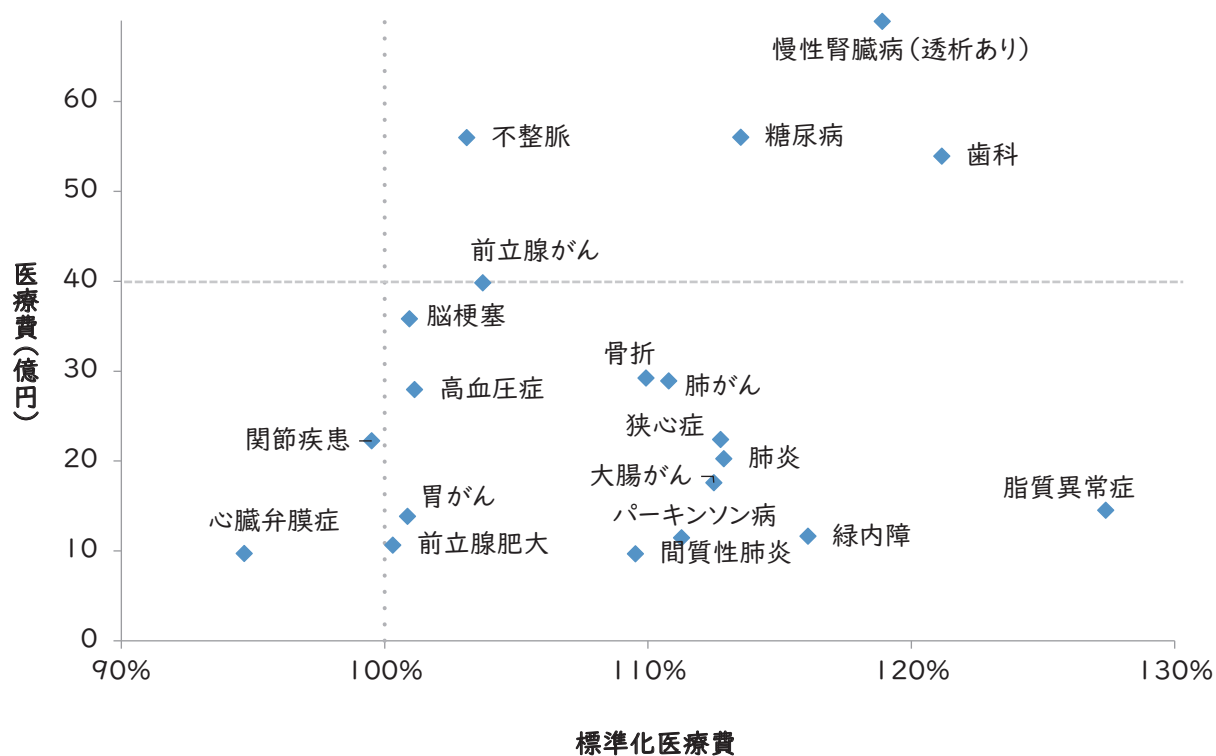
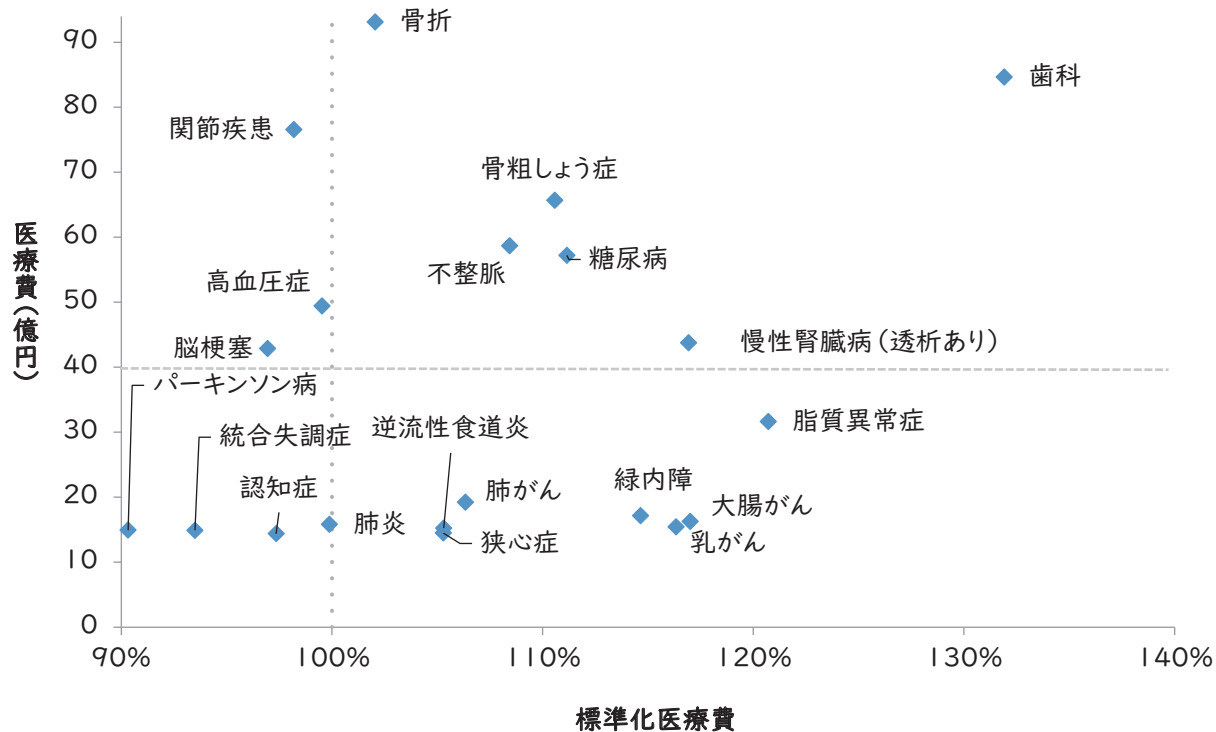
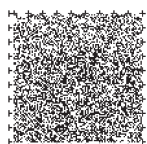


図41 名古屋市後期高齢者 疾病別医療費（1～20位）【女性】（令和4年度）



出典: 国保データベース (KDB) システム

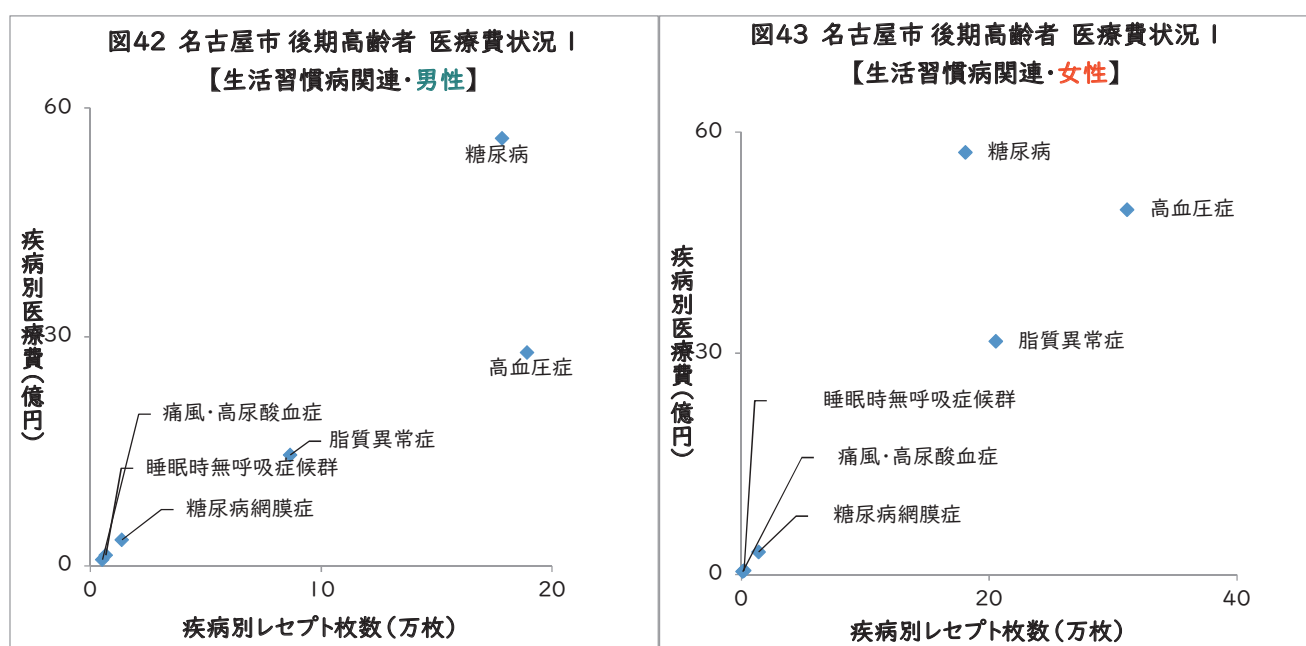


4-5 疾病グループによる後期高齢者の医療費分析

「生活習慣病関連」「循環器系疾患（心疾患・脳血管疾患）」「フレイル関連」「悪性新生物」「その他の疾患」にグループ化し、令和4（2022）年度の国保データベース（KDB）システムから提供されたデータを用いて医療費を分析しました。

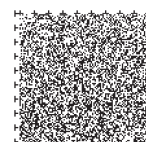
（1）生活習慣病関連

生活習慣病関連では、糖尿病、高血圧症、脂質異常症、痛風・高尿酸血症に加え、糖尿病の合併症で視力に影響を与える糖尿病網膜症、肥満症に関連のある睡眠時無呼吸症候群を分析対象としました。男女ともに糖尿病、高血圧症、脂質異常症のレセプト枚数が多く、医療費は糖尿病が最も高額です。男性に比べ女性では脂質異常症のレセプト枚数の多さが目立ちます（図42、43）。

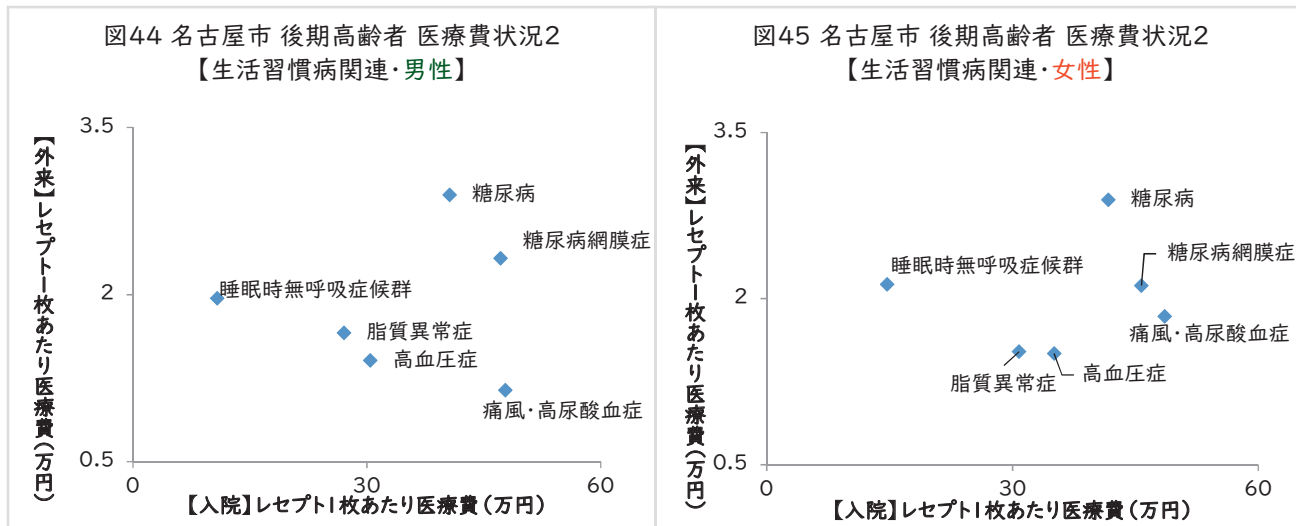


出典：国保データベース（KDB）システム

総医療費は受診者数と受診1件あたりの平均医療費の掛け算です。受診者は多くなくても1件あたり医療費が多くかかる疾病への対策も必要です。また、疾病は手術で完治するもの、外来での継続治療が必要なもの、入院による高額な医療が必要なものなど様々です。そこで疾病別に入院・外来のレセプト1枚あたりの医療費を算出し、その特徴を調べました。

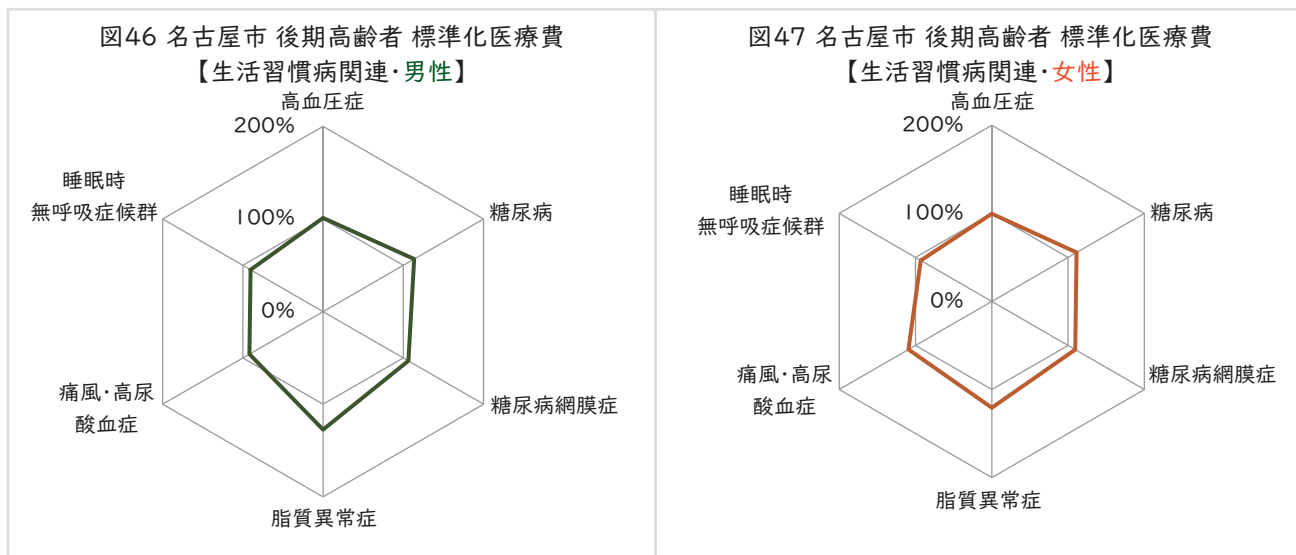


生活習慣病関連のレセプト1枚あたりの医療費は、女性の痛風・高尿酸血症の外来レセプトが男性より若干高額であることを除き、男女で大きな差を認めません。糖尿病網膜症は重症化すると、入院手術が行われ医療費も高額です。睡眠時無呼吸症候群の入院は他の生活習慣病に比べ低額ですが、短期間の検査入院が大部分を占めている可能性があります(図44、45)。



出典:国保データベース(KDB)システム

標準化医療費は脂質異常症で男性127%、女性121%であり、糖尿病も男性114%、女性111%と全国を上回っていますが、高血圧症は男性101%、女性100%と全国と同程度です(図46、47)。



出典:国保データベース(KDB)システム

